

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314

立教百八十二年  
明けましておめでとうございませす



昨年は教祖百四十年祭目指しての二年目として、共に成人の歩みを進めさせて頂きました。お陰で十一月二十五日の別席ひのきしん団参も賑やかにつとめさせて頂く事が出来ました。誠にご苦勞様で

した。さて、いよいよ大教会創立百三十周年記念祭並びに六代会長就任奉告祭に向けて、三年千日と仕切つての成人の歩みが始まりました。合言葉は「陽気ぐらしを

目指してたすけの輪を広げよう」であります。昨年は「災」が一年の文字に選ばれ程、災害の多い年でした。この事からも、いかに親神様の思召と私達の心遣いに隔たりがあるかを思い知らされました。加えて真柱様の御身上により、おさづけの理の押戴が出来なくなっている事を合わせ考えると、「たすけ心」の欠落に理由があると思われます。私達の信仰するこのお道は、たすけ道であります。おたすけをするのが目的ではなく、おたすけを通して世界中の人をおたすけ人に育て、万互いが助け合う世界を作り上げる事が目的なのです。改めて目的を見つめ直して「たすけの輪が広がる」よう努めさせて頂きましよう。三年千日一年目は「一教会初席者一名以上」そして「百万件のをいがけ」です。勇んで努めましよう。

笠岡大教会長

上原理一

立教 182年  
1月号

立教182年

各部会の抱負 及び

年間行事予定

創立百三十周年

推進委員会

笠岡大教会創立百三十周年記念祭・

六代会長就任奉告祭 三年千日活動

スローガン

陽気ぐらしを目指して、

たすけの輪を広げよう

活動目標

☆今一手一つに、一歩一歩！

一年目 ・一教会、初席者一名以上

・百万件のにいがけ

活動趣旨文

私たちの信仰の目的は、世界一れつの陽気ぐらしにあります。無い人間無い世界をお創め下された親神様が、一れつの人間を余すことなく救上げたいとの思召からこの世の表に現れ、その世界のふしんの道具立てとして、様々な印を付けて、世の人に先んじてお引き寄せ頂いたのが私たちの初代であります。

無い命を救って頂いた初代や先人達は、救って頂いただけにとどまらず、そのご恩を胸に、教祖は御存命でお働きくださる事を信じ、本気で陽気ぐらしの世界を目指し、世界中の人間を救上げようと、燎原に火を放つが如く勢いをもっておたすけに奔走しました。

現在、信仰の代を重ねた私たちは、日進月歩の勢いで発展する社会の中にどつぷりと浸かり、更には、医学や科学は発達しても、様々な問題に悩み苦しむ人が増え続ける今日の世界を目の当たりにし、陽気ぐらし世界の実現は途方もなく遠く、不可能だと考える向きが強まってきているように思う。

そうしたことから、大目標を見失った信仰というものは、現在の風潮を反映するような姿となり、「今だけ良ければいい、自分だけのことを考えたらいい」という、その場限りの信仰となり、自ずと次代へと伝えることが疎かになってしまいます。

立教百八十一年の春季大祭において真柱様は、

「一手一つとは、同じ一つの目標に向かってそれぞれがその持ち場の役割を果たすと共に、相互に連携して活動す

ることであります。私たちの目指すところは、親神様、教祖の思召である、世界一れつを救って陽気ぐらしの世の中を実現することであります。その為には、この教えを世界中に行きわたらせ、また末代に伝えなければなりません。

改めて世界一れつの陽気ぐらしという私たちの目標を見つめ直し何よりもお互いがしっかりと心を繋ぎ合い、一手一つに一歩一歩地に足の着いた歩みを積み重ねていきたいと思うのであります。」

とお示し下さいました。

大教会の創立百三十周年を三年後に迎える私たちは、改めて、この信仰の目的である「陽気ぐらし」を目指し、目標を見失う事のないようにスローガンに掲げ、途方もなく遠い世界かもしれないが、今の私たちの歩みが次代へと繋いでゆくことのできるよう、自分にできる人救いの歩みを、一手一つに揃えて、一歩一歩と確実に進んでいきたい。

### ●活動目標について

スローガンを推進していく上での、具体的な活動目標です。

・一教会、初席者一名以上

人材の育成は常時や、年祭活動などの非常時にかかわらず、常に教会として欠かすことのできない働きかけです。しかし、ここ数年人作りの成果の上に、反映されていない教会が多数あるのが現状です。更には、常に意識していなければ慣れてきてしまうのが問題です。そうした上から、特にこの三年間は、毎年一名以上の初席者を全教会が目指し、人作りの雰囲気を高めていきたい。

・百万件のにいがけ

人作りは三年間通して掲げていきませんが、その人作りの上に繋がる活動として、一年目は「百万件のにいがけ」を目指して活動を進めたいと思いません。

形態は問いませんし、千差万別のにいがけがあると思います。パンフレット配布や戸別訪問、神名流しや路傍講演は勿論のこと、職場での一言のにいがけ、更には、教会や自宅周辺でのゴミ拾いや挨拶。ゴミ集積所や公園など公共施設のひのきしん。人の靴やスリッパを揃えるなど、様々な行動が立派なにいがけになるのです。大切なことは続けるということ。自

分にできるにいがけを実践しまし  
う。

毎月の祭典報告書に件数を記入し提  
出していただきます。教会に繋がるよ  
うぼく信者さんまで声を掛けて頂き、  
実践したにいがけ件数を報告しても  
らえるよう工夫をお願いします。

### 布教部

笠岡大教会として、いよいよ「創立  
百三十周年記念祭並びに六代会長就任  
奉告祭」に向かう三年千日の歩み出し  
が始まりました。

その活動スローガンを「陽気ぐらし  
を目指して、たすけの輪を広げよう」  
と掲げられました。

真柱様は

「私たちが目指す陽気ぐらしは、よう  
ぼく一人ひとりが親神様・教祖のお心  
に添って、一歩ずつ歩みを進めるなか  
で、だんだんとその輪が広がっていく  
ものだと思います。

まずは家族をはじめ、身の周りの人  
たちにしつかりと信仰を伝え、互いに  
たすけ合う生き方を実践し、土地所に  
映していきたいと存じます。」  
とお示し下さいます。私たちの日常の

生活の中でできる「たすけ合う生き方」  
の輪を広げることができるよう、布教  
部が旗振り役となるよう活動を展開し  
ていきます。

毎年2月26日〜27日に開催しており  
ました教会長講習会が、本年より**2月  
25日〜26日**にかけての開催に変更致し  
ました。本講習会ではここ数年、おた  
すけの多様化による専門的知識の習得  
を優先事項と位置づけ、分科会形式で  
そのニーズに対応してきました。その

専門的な内容の上から大変評価が高い  
反面、教会長だけで終わらせてしま  
うのは勿体ない、という意見も多数挙  
げられました。そうした事を熟考し、更  
には、道の後継者育成という上からも  
鑑み、教理勉強会(仮称)としてより多  
くの、そして幅広い年齢層に受講して  
もらえるよう、定期的に開催すること  
となります。

内容は順次発表いたします。教理勉  
強と共に、おたすけに役立つ専門知識  
の習得の上に、幅広く声掛けをお願い  
します。

### ◎年間行事

1. 立教182年 教会長講習会

日時

2月25日 12時30分 受 付  
13時00分 開講式  
26日 各自祭典参拝後 解散

### 内 容

- ・ 大教会長様講話
- ・ 活動スローガン及び活動目標の徹底及び活動に対しての意見交換
- ・ 25日は夕食を兼ねた情報交換を予定しています。

対 象 教会長

受講お供 3,000円

(受付で納めて下さい)

※身上等でやむを得ず欠席の場合  
は、その理由を必ず大教会長様  
に連絡して頂くようお願い致し  
ます。

### 2. 別席ひのきしん団参

日時 11月23日(日)

別席ひのきしん団参を実施して  
十数年が経過します。帰参者の増  
員はもちろんです。本年は特に  
「一教会、初席者一名以上」の活  
動目標が達成できるよう、初席参  
者・別席者の増員に力を入れて取  
り組みたいと思います。初席者、

中席者のご守護が頂けるよう、各  
教会で声掛け、働きかけをお願い  
します。

### 3. 立教182年全教一斉ひのきしんデー

期 日 4月29日(月・祝)

※参加への呼びかけを(特に、教  
会と離れた地域に住まうよふぼ  
くへも、所属教会から積極的な  
声掛けをお願いします。)

### 4. 布教推進講習会

期 日 9月21日(土)

大教会祭典後

### 5. 立教182年全教一斉にいがけデー

・ 9月28日(土)

・ 9月29日(日)・30日(月)

全よふぼく実動日

※9月は布教強調の月です。総て  
の教会で活動を進めることが出  
来るよう計画致します。

### 海外部

海外部の動きは海外移住者・海外の  
現地人用木・信者へ、教内の動き・笠岡  
の動きを伝える文書伝道を行く  
事と、帰参される方々のお世話取りと

お手伝いを理の親の方々とさせて頂く事。来日される外国の人達への布教活動などを通して、海外伝道の意識を持った人材を育てていくことにあると思います。

例年の英語講習会、11月の月次祭祭典講話に代えての海外伝道講習会、また広島平和公園での外国語パンフレット配布などの行事も、未来に繋がる海外伝道の意識を高めるものであります。一昨年から始まった文化活動・英語クラブも2月で4年目に突入し、その意識を高めて行く人材育成が出来ればと思います。そして、今年でタンザニアの国へのおたすけ活動も11年目を迎えます。将来現地の人達が中心となつてつとめとさづけ、教えを通して喜びを共有できる場を持てる事を目標に展望を持って動かさせて頂きます。

今年も、海外布教を基盤として信仰を深めるアプローチを続けていきたいと思ひます。

――年間行事――

- 1. 英文パンフレットを配布(3月と11月に広島観光地へ行きます)
  - ：海外伝道に携わらせて頂く理作りをさせて頂こうと思ひます

す。

2. 英語講習会(8月7、8日に開催)

：昭和43年に始まったこの講習会は今年で77回目を数えます。毎年海外のネイティブスピーカーをゲストとしてお呼びし、参加者とのクラス、バーベキュー、クイズなどを通しての英会話、海外の思ひを聞かせて貰います。

3. 海外伝道講習会

(11月21日の月次祭に合わせて)
：外部講師をお呼びし、海外伝道に携わる話を聞かせて頂き、日々の信仰生活のヒントにして頂きたいと思ひます。

4. アフリカ孤児支援バザー桜祭り

(於：大教会会 開催【4月7日(日)】)

5. 英語クラブ(月1回毎月22日夜7時から8時半まで開催しています)
：海外布教の一助になればと思ひます

育成部

ようぼく勉強会

大祭月、世話人先生の講話月、縦伝学担・海外部の講話以外の月に実施。21日午後1時30分～2時。

管理部

管理部では庭木の手入れを中心に活動しております。今年6月には婦人會長様ご臨席總會、また3年後には創立130周年を迎える時期に来ていて、まずは真柱様・奥様に目で見えて心地よくご参拝して頂ける様、心の籠ったおもてなしを心掛けつとめさせて頂きたいと思っております。それぞれにできるひのきしんを通して心の成人に繋げ、人の寄り易い大教会になる様、信者さん方にも声掛けを頂いて、共に心の剪定も行いながら節目の行事に取り組みたいと思っております。何卒ご尽力頂きます様よろしくお願い致します。

○5月 中庭舞台設置 (6月23日 婦人會長様)

臨席總會

○夏季 草刈り

○10月 障子張り・庭木の剪定

○12月22日 大掃除

婦人会

婦人会創立百十周年記念總會に向かい、「おたすけのできる婦人会員に成人しよう」と、一人の会員が二人の会

員をご守護頂きたいと活動をすすめさせて頂く中、少しでも多くの会員にその思ひを届けたいと、本年五月より九月十六日にかけて、各地域で会員決起の集いが開催されます。とりわけ笠岡支部では、期間中の六月二十三日(日)大教会を会場に支部婦人會總會を婦人會長様の御臨席を頂いて、開催させて頂きます。笠岡に繋がる全婦人會員の皆様、又これから育てて頂きたい女性の皆様にしつかり声を掛け、参加を促していきたいと思ひます。どうぞ皆様お力をお貸し下さい。大教会創立百三十周年記念祭及び六代会長就任奉告祭のご発表も頂きました。新たな會長様を迎えさせて頂く上にも大きな理作りにつながることを存じます。婦人會員心を揃え、一手一つにこの一年を明るい笑顔でつとめさせて頂きたいと存じます。本年も精一杯の誠真実を尽くさせて頂きましょう。

4月19日 婦人會第101回總會

本部中庭

5月1日～9月16日

婦人會會員決起の集い

各地域

6月23日 笠岡支部第24回總會

大教会—会長様ご臨席—  
8月25日 御臨席総会御礼別席団参

おちば  
11月3日 女子青年大会 本部中庭

### 青年会

新年明けましておめでとうござい  
ます。

青年は、天理教青年会創立百周年の  
年の青年会活動の上に、多大なるお力  
添えを頂き、誠にありがとうございます  
でした。

本年もより一層お力添え頂きますよ  
う、よろしくお願い致します。

さて、創立百一年目を迎えた天理教  
青年会ですが、笠岡分会としての今後  
の歩みは、昨年の創立百周年記念総会  
で青年会長様がお示しくされた三つ  
のポイント、すなわち「自主性」「楽  
しむ」「世界だすけ」にあると思いま  
す。この三点を意識し、青年会長様の  
思いにお応えできるように分会活動を  
推し進めて行きたいと考えておりま  
す。

それと合わせて、今年から始まる笠  
岡創立百三十周年記念祭に向けての三  
年千日活動において、青年会が大きな

推進力となれるように、若い力を活か  
して全力で勤めさせて頂きます。

また、今年是新委員会発足という新  
たなスタートを切る年でもあります。

現委員会の活動の総仕上げとして、12  
月1日に笠岡分会総会と合わせて父親  
講座を開催致します。一人でも多くの  
会員にご参加頂きますよう、お願い致  
します。

#### ◆本年の分会活動

- ・ひのきしん団参……………6月30日
- ・おやさとふしん青年会ひのきしん隊  
……………9月1日～24日
- ・第95回天理教青年会総会  
……………10月27日
- ・あらきとよりよう入門塾  
……………10月27日
- ……………10月27日総会后笠岡詰所にて
- ・青年会笠岡分会総会……………12月1日
- ・父親講座……………12月1日総会后
- ・有志ひのきしん隊……………毎月(随時)

### 少年会

私たちがこの道を通る上に常に心に  
置いておかなければならないことは自  
らが成人の道を進むとともに、このた  
すけ一条の道を教祖に続いて後々に間

違いなく伝えることであります。一人  
の人間が成人していくには、それぞれ  
その時代や成人の程度に見合った伝え  
方、導き方があると思います。言うま  
でもなく天理教少年会は子供のうちか  
ら教えが身に付くよう働きかけ、いず  
れお道の人として立派に立ち働けるよ  
うに育てたいという思いから始まった  
のであって、青年会や婦人会と同様に  
心の成人を進めるためのものでありま  
す。

子供たちが少年会の年代を終えてか  
らも自分の意志で道を通り、ようぼく  
となっておたすけの心を持って生きる  
人間になること。これが少年会が目指  
す最終の目標であることを改めて確認  
しておきたいと思うのであります。本  
年も少年会活動の上にそれぞれの立場  
でご丹精くださいますよう、よろしく  
お願いいたします。

- 立教182年笠岡団年間行事 —
- ・おつとめ総会……………4月1日
- ・鼓笛合宿……………3月30・4月1日
- ・育成講習会……………4月21日
- ・サマーキャンプ……………8月21日～23日
- ・てっちゃんシアター(親子参拝推進)  
……………3・4・7・9・12月の21日祭典後

### 学生担当委員会

#### 行事計画

- 2月21日 学生層育成者講習会
- 3月3～9日 学修 大学の部
- 3月10～12日 学修 高校卒業生コース
- 3月28日 学修 直属アワー
- 4月28日 おちば管内新人生歓迎会
- 8月9～15日 学修 高校の部

### 雅鶯会

#### ◆雅楽勉強会

- ・とき……………3月3日(日)午前9時受  
付、9時半開講式・勉強  
開始～午後3時閉講
- ・ところ……………大教会
- ・対象……………初心者、初級者(少年会  
員、一般)
- ・内容……………初心者には、雅楽の基礎か  
ら勉強を、初級者は、平  
調の越天楽が合奏できる  
よう勉強します。

- ・講師……………大教会雅楽奉仕者
- ・参加費……………300円
- ・申し込み……………2月28日までに各プロッ  
ク雅楽担当者に申し込  
み。直轄…虫明立生、福

# 「天理時報」

## 1ヵ月無料送付サービス付きキャンペーン

■ 期間

2018年 **4月1日**～ 19年 **3月31日**

■ 内容

新規(※)に時報の購読(1部4,560円/年)を申し込むと、1ヵ月分が無料で付きます(計13ヵ月分)。

(※) 前回の購読中止から6ヵ月以上が経過した方も、新規の対象となります。

**1**  
ヵ月  
**無料**

|         |         |          |          |          |          |
|---------|---------|----------|----------|----------|----------|
| 2<br>ヵ月 | 3<br>ヵ月 | 4<br>ヵ月  | 5<br>ヵ月  | 6<br>ヵ月  | 7<br>ヵ月  |
| 8<br>ヵ月 | 9<br>ヵ月 | 10<br>ヵ月 | 11<br>ヵ月 | 12<br>ヵ月 | 13<br>ヵ月 |

また、ゆうちょ銀行による「自動引き落とし契約」にする場合でも、自動引き落とし特割(1部4,200円/年)に加えて、「1ヵ月無料送付サービス」が付きます。



時報の購読を勧める普及チラシおよびキャンペーンの申し込みはがきを用意しています。ご希望の方は、下記までご連絡ください。

お問い合わせ <道友社定期購読受付>  
電話：0743-63-4002 FAX：0743-63-5513

山：藤井保人、高屋：武内清明、島根：仙田公男、上下：府中市：山野弘実、久松：中村剛史。

### ピーチの会

①各ブロック担当者による縁結びカードでの出会い、お見合いを推進。  
②縁結びツアーを検討中。



「縦の伝道」について話す高橋氏

育成掛(中島誠治主任)は12月21日、祭典終了後、会議室でよふぼく勉強会を開催した。講師は高橋徳行先生(亀田山分教会長)。テーマは「縦の伝道」。先生は「縦の伝道」とは、お道の進展の上には欠かす事の出来ない大切なテーマであると提起され、現在、島根教区・少年会団長という立場から、親の時代の少年会活動、又、自身が少年

### よふぼく勉強会開催 テーマは「縦の伝道」 12月月次祭後

#### 育成掛

会員であった時、そしてわが子に対する「縦の伝道」などについて話しを進められた。

自身が受講した新任教会長の集いで心に残った「地域に根差した教会を目指そう」という事を課題に移転普請をした際、教会近くの保育園にわが子を入園させ、地域との接点を持つ中で教会おとまり会や夏のこどもおぢばがえり、また笠岡団おつとめまなび総会などの参加に繋がってきたと振り返られた。そして自ら求める「縦の伝道」の実践、次代を担う人材育成への思いを話され、代を重ねるごとに信仰に繋がる事が難しくなってくるが、新規の開拓を進めていくと共に教会の門戸を広げ、敷居を低くする思いをより強く心に置きながら通っていききたい、と話しを締めくくられた。

### 年末大掃除

#### 管理部

管理部(虫明立生部長)は12月22日、大教会年末大掃除を行い、大教会長様ご夫妻をはじめ役員、婦人会、青年会、信者ら約80人が参加した。

午前8時過ぎから大掃除の準備が進められ、集合時間の午前9時、大教会長様のお手に合わせて三殿礼拝を行い、それぞれに分かれて開始した。男性は大教会長様・明勇先生を先頭に白衣を着用、結界内の神床の社から上段・中段・参拝場の順に御簾、欄間の埃を払い水拭き・空拭きと各々分担し、また長梯子・ビデで高所の欄間掃除や神殿廊下外側の窓拭きも手際よく仕上げていった。



また婦人会を中心にふく、信者の方々は、神殿内で使用する雑巾の準備や窓拭き、信者室、トイレ掃除など隅々に至るまできめ細かい作業をし、10時15分に一度休憩を取り、その後もそれぞれの持ち場でのひのきしんを仕上げ昼食後、解散した。  
年末のお忙しい中を、大教会の大掃除にご参加頂きました皆様には、誠に有難うございました。



12月26日、本部月次祭終了後、恒例の詰所餅つきひのきしんの準備が始まりました。夜は、島根分教会からの蟹、大教会からの牡蠣の差し入れて鋭気を養う。27日、気持ちの良い好天気に恵まれ、午前7時より餅つき開始。総勢50人の大所帯で餅つきが始まり、1人

**恒例の餅つきに笑顔**  
12・27 詰所

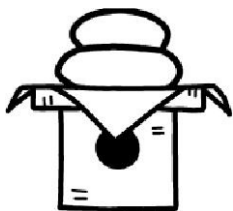


神床・殿内から管内の隅々までキレイに



杵音も高く「美しい餅」がつきあげられた

でつく者、また2人で息を合わせてつく者、また3日同時につくなどそれは勇ましいものでした。  
結果、5升餅を23臼をつきあげました。12月30日、東礼拝場へ配送。「美しい餅ですね」との言葉を頂いたそうです。  
(詰所 杉原博之)





# 修養科生の声



## 修養科を終えて

直轄 上原 理子

私はこの三ヶ月間の修養科生活で、心の向きや考え方が変わったというよりも、教祖をより身近に感じ、このお道の奥深さを知りもつと良いなと感じるようになりました。

修養科に入り、学校が始まるまでの五日間が私にとっては一仕事、長い時間で、「三ヶ月間こんな調子で私は大丈夫なんだろうか」と思っていたのですが、学校が始まってしまえば授業にひのきしんとと休む暇もない程たくさんさんの御用を頂き、そのおかげで辛く感じることもなく楽しく三ヶ月を通ることができました。

これも一つのご守護かなと思わせて頂きます。学校が始まる前、私は三つの心定めをしました。毎日笑顔で通ること、人の話をきちんと聞くこと、何事も勇んでさせて頂くことです。この心定めによって、自分でも楽しみ勇む

ことを心掛け、その結果その通りに通らせて頂いたのだと思うのです。人の話をきちんと聞くことという心定めは自分自身が、「話を聞いているように聞いていない」ことが常でありましたので、話は一つも聞きもらさないようにと定めておきました。そうしていると不思議な事に、どんなに眠たい日でも講話やお話を聞く時には眠気がとび、しつかりと話を聞かせて頂く事ができました。また、詰所でも朝夕のおつとめの際の教養の先生方のお話をたくさん聞くことができ、ありがたかったです。この三ヶ月間で学んだ事、感じた事を、そこだけで完結させることのないように、修養科修了のその日をスタートラインにまたこれからの日々にも

反映させ、忘れずに通らせて頂きたいと思えます。そしてそうして通る中に、親神様・教祖の思召しも聞き逃さぬよう、取り違いをしないよう、しつかりと心を仕上げていきたいです。

## 修養科生活を終えて思う事

稲倉分教会 大月 道昭

私は昨年六月、会社勤め四十六年後定年を迎えこの度修養科へ入らせて頂

きました。修養科へ入らせて頂く理由として二ツ有りました。一ツ目は会社生活四十六年間、仕事柄危険な環境の中、無災害で、元気に勤めさせて頂いた親神様・教祖への御礼です。

二ツ目は理の親の勧めで高校生活の三年間の夏休みに学生生徒修養会前期・中期・後期と参加させて頂き、修養科終了・教人講習終了の資格は有るものの、現実、教理等殆ど身についていない状態でした。私自身十五年前から布教所長という立場にならせて頂きながら中身の無い中途半端な状態でした。よってこの度修養科へ入らせて頂きました。がしかし、六十五才ともなると学習能力が衰え身につかないのが現状でした。しかし、おてふりの練習については、教養の先生が熱心に指導して下さりましたが、練習する毎に今までのいい加減さがわかり、教祖に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。「修練によりしつかりと自分の癖性分がとらせて頂けるから大丈夫」と言われた時にはホッとした気持ちでした。

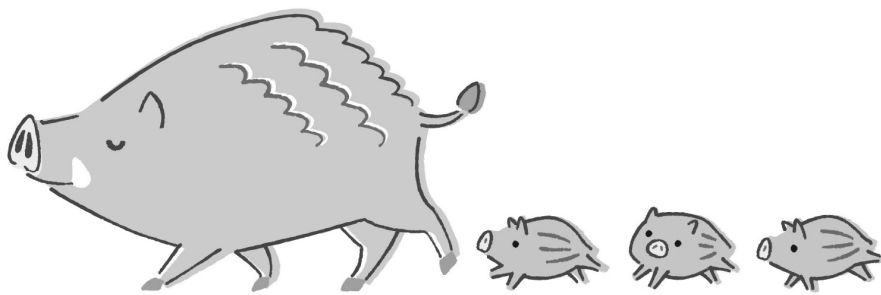
修養科中、学校では、クラス二十人中、若い人は十七才から七十四才の高齢者まで、身上・事情者も約半分でした。

だが、皆全員話す内、気持ちが解け合い良い人達と出会いました。担任、副担任の先生の指導と皆の心が合致したと思います。特に感心したのは、身上者が全員のおさづけの取り次ぎ合いにて御守護頂いた事です。うつ病の人、足の骨折等の人、最初話もあまり話せず、松葉杖、手押し車、車椅子を使用していた人が二ヶ月を過ぎた頃には殆ど話せるようになり、未使用に近い状態まで御守護頂かれた事です。私自身今まで多数の方が短期間の内に御守護頂かれたのを目の当たりに見させて頂いたのは初めての事でした。修養科、

ちばの理を改めて感じさせて頂きました。又、学校の授業の中で、十全の御守護の理、八つのほこり、教祖のひながたについては改めて身につけねばならないと感じました。今後もただ覚えるだけでなく理合いを身につけねばならないと感じました。今後もただ覚えるだけでなく理合いを身につけるよう勉強させて頂きます。最後に本部の先生方の講話を聞かせて頂き感じたのが今までの私自身の通り方でした。人と話をする場合、常に自分中心、言い方を変えれば自分の定規で相手を変えようとした事です。教祖のひながたの中



で、貧の道中、低い心になりなされや、  
と言われるように今後は相手の身にな  
って低い心・慎みの心で人に接して  
いきたいと思いました。  
本部の先生方、教養掛の先生方、詰  
所の先生方には大変御世話になりまし  
た。  
今後は教会長の手足となり、今まで  
より一層努めさせて頂きたいと思いま  
す。



立教百八十一年 十二月月次祭 祭典役割表

| 胡弓   | 三味線   | 琴    | 小鼓    | すりがね | 太鼓   | 拍子木  | ちゃんぽん | 笛    | てをどり  | おつとめ  | 地 方   | 役割   |      | 講 話   | 祭 主  |           | 扨 者  |       |      |      |
|------|-------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|-----------|------|-------|------|------|
|      |       |      |       |      |      |      |       |      |       |       |       | 区分   | 坐り勤  |       | 前 半  | 後 半       |      | 指 図 方 | 賛 者  |      |
| 上原順子 | 武内正美  | 佐藤香苗 | 中村義太郎 | 笹尾正治 | 谷内伸自 | 森本忠平 | 吉岡誠一  | 吉岡誠一 | 今川佐智子 | 田中ますみ | 大教会奥様 | 上原繁道 | 上原明勇 | 大教会長様 | 山田敏教 | 横山逸郎      | 佐藤道孝 | 大教会長様 | 三島涉  | 横山逸郎 |
| 笹尾一美 | 森本富美子 | 岡崎豊子 | 赤木素志  | 上原浩  | 内海史郎 | 中島誠治 | 三島渉   | 佐藤真孝 | 横山小智榮 | 高木孝子  | 門脇加津  | 杉原博之 | 岡崎真一 | 中村剛   | 浅野明教 | 高木昭祥      | 門脇元教 | 山田敏教  | 山田敏教 | 佐藤真孝 |
| 岡崎和美 | 吉岡八恵  | 三島照美 | 武内清明  | 虫原立生 | 上原繁次 | 渡邊隆夫 | 三代温生  | 森本忠善 | 田中つかさ | 中村初美  | 内海安子  | 山野弘実 | 中村道徳 | 田中隆之  | 岡田誠  | 田林久嗣      | 今川昌彦 | 山田敏教  | 山田敏教 | 佐藤真孝 |
|      |       |      |       |      |      |      |       |      |       |       |       | 前 半  | 後 半  | 上原繁道  | 二月講話 | 学生層育成者講習会 | 吉岡 壽 | 山田敏教  |      |      |

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていま  
したので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽12月16日付「時報俳壇」

・備中◎ 塩飽利子さん

日に映ゆる銀杏落葉や神の庭

▽1月1日付「新春歌壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

新春の絵手紙の亥のおどりたり

災害のなき佳き年願う

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

平成の最後の年をわが家では

身上一ろいろお見せいただく

▼『陽気』誌1月号「道柳」より転載。

▽人 位

・東悠◎ 田林美智子さん

新たなる光の中に神を見ゆ

▼表紙写真

(上原喜三かさおか編集掛員)



# 十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の一系列子供に陽気ぐらしさせてやりたいとの 親心溢れる御守護とお導きを頂いて 日々は結構に恙なく暮らさせて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々朝夕におつとめを勤めて御礼を申し上げ ご恩報じを念じてそれぞれの持ち場立場を活かしつつたすけ一条のご用の上に努め励まして頂いております特に今月は年の最後の月に当たり 年頭の心定め完遂を目指し悔いの残らないよう努めさせて頂いております

その中にも今日の吉日は 早くも本年納めの月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 本年賜りました御守護への喜び感謝の心も一人に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には年の瀬の寒さ慌ただしさを厭いませす 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝む状をご覧下さいます 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて思い返せば 今年には自然災害が際立った年でありました 北海道での地震 西日本での台風や豪雨 加えて全国的な酷暑等これまでに経験した事がないような事が次々と起こりました 改めて知恵や力をつけた人間とは言え自然の前ではいかに無力であるかを思い知らされると共に 心通りの守護であり これでも親神様が親心を以て大難は小難にとお導き下さった結果であるならば いかにかに我が身勝手な心を使っているかに気付き 心の立て替えを図っていかなければなりません 私共よふぼくに与えられた使命の重大さを痛感し 世界中の人の心の成人が一步一歩前進出来るよう努めさせて頂く所存でございます 又先日の別席ひのきしん団参は結構にお連れ通り頂き誠に有り難うございました 天気の良い御守護も頂いて皆勇み心一杯におぢば帰りさせて頂きました 更には又年が改まればいよいよ創立百三十年記念祭並びに六代会長就任奉告祭に向けて三年千日と仕切つての成人の歩みが始まりです 一月大祭参拝を通して直轄教会に 二月三月部内巡教を通して部内教会に成人の歩みの徹底を図り 一手一つに心を合わせて前進させて頂く所存でございます

何卒親神様には 成つて来るのが天の理と助けたい一条の親心に応え精一杯におたすけに励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚一層自由の御守護を賜ると共に 喜びと希望に満ち溢れた年末年始を迎えられますよう御守護の程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 大教会だより

◎創立百三十年記念祭

並びに六代会長就任奉告祭

立教184年10月24日(日曜日)

|| 辞令 ||

立教181年11月21日付

◎創立百三十年推進委員会

委員長 田中隆之  
委員 上原明勇

門脇元教  
武内正美

岡崎真一  
上原志郎

今川昌彦  
吉岡誠一郎

山野弘実  
森本忠善

実行部員 全部内教会長

◎職制人事 立教181年12月21日付

詰所掛主任 杉原博之

◎第九三〇期修養科

自 立教181年10月1日  
至 立教181年12月27日

\*教養掛(主任、副主任)

一ヶ月目 ①森本忠善

(大教会准役員)

海松ヶ岡分教会長

②猪原啓介

(門司港分教会長)

二ヶ月目 ③上原明勇

(大教会役員)

④津森朋之

(簸ノ川分教会長)

三ヶ月目 ⑤上原志郎

(大教会役員)

⑥枝廣隆文

(東福山分教会長)

\*修了者

稲倉 大月道昭

笠岡 上原理子

◎本部食堂ひのきしん

自 立教181年1月5日

至 立教181年1月11日

久松 中村剛

自 立教181年1月12日

至 立教181年1月15日

美之郷 桑田恵美子

◎立教182年春季大祭参拝

福山上原明勇

高屋 大教会長様

神邊 中村剛

島根 上原繁道

久松 大教会長様

鶴山 上原繁道

弥高山 大教会奥様

陽備 上原明勇

摩耶 上原明勇

金浦 大教会長様

興明 武内正美

ひろさと 上原明勇

陶山 大教会奥様

芳井 大教会長様

呉照 田中隆之

海松ヶ岡 大教会長様

東悠 上原繁道

吸江 吉岡壽

照陽 大教会奥様

輝美濃 上原繁道

新山邑 上原明勇

皆部 上原繁道

明石市 佐藤道孝

上中市 中村剛

府中市 大教会長様

東城 佐藤道孝

服部 佐藤道孝

島中 武内正美

驛家 上原明勇

油木 田中隆之

葦陽 田中隆之

湯田原 吉岡壽

備中 佐藤道孝

神昭 田中隆之

美之郷 大教会奥様

錦備 吉岡壽



年末にあるお宅に用事で行かせて頂いた時、机の上に日めくりが置いてあった。日めくりには、月の満ち欠け、色々な記念日などが書かれているが、『先勝・友引・大安』などの『六曜(六輝とも言う)』と呼ばれる暦が記されている。この『六曜』には、それぞれ固有の吉凶・運勢が定められており、そのうちの半分が、運勢がよくない日や時間帯とされている。それが生まれた時代背景や、当時中国で使っていた武將の事を考えれば、成り立ちは自然な事かなと思う。ただ、私は、『六曜』を否定するつもりは全くないが、一年365日のうち半分が運勢の悪い日だとすると、何だか勇めないなと感じた。

教祖は、「不足に思う日はない。皆、吉日やで。皆の心の勇む日が、一番吉日やで」と教えられた。また、具体的に1日から30日までの悟り方も示され、「一年中一日も悪い日はない」とも教えて下さっている。『皆、吉日』とは、物事を感謝の心で受け止め、明るい方向へと切り替えていく心の姿勢。良い日・悪い日があるのではなく、心の姿勢が結果的に良い日を作っていくという、日めくりとは、全く逆の発想である。

大教会創立130周年への三年千日活動踏み出しの年。感謝の心で一步一步踏み出せば、毎日がきつと『吉日』になるはずだと自分に言い聞かせ、弛む事無く歩みを進めていきたい。(う)



笠岡大教会 KASAOKA  
DAIKYOKAI



創立百三十周年記念祭

六代会長就任奉告祭

三年千日活動

陽気ぐらしを目指して、  
たすけの輪を広げよう

今 一手一つに、一步一步！

立教184年10月24日 執行  
(2021)